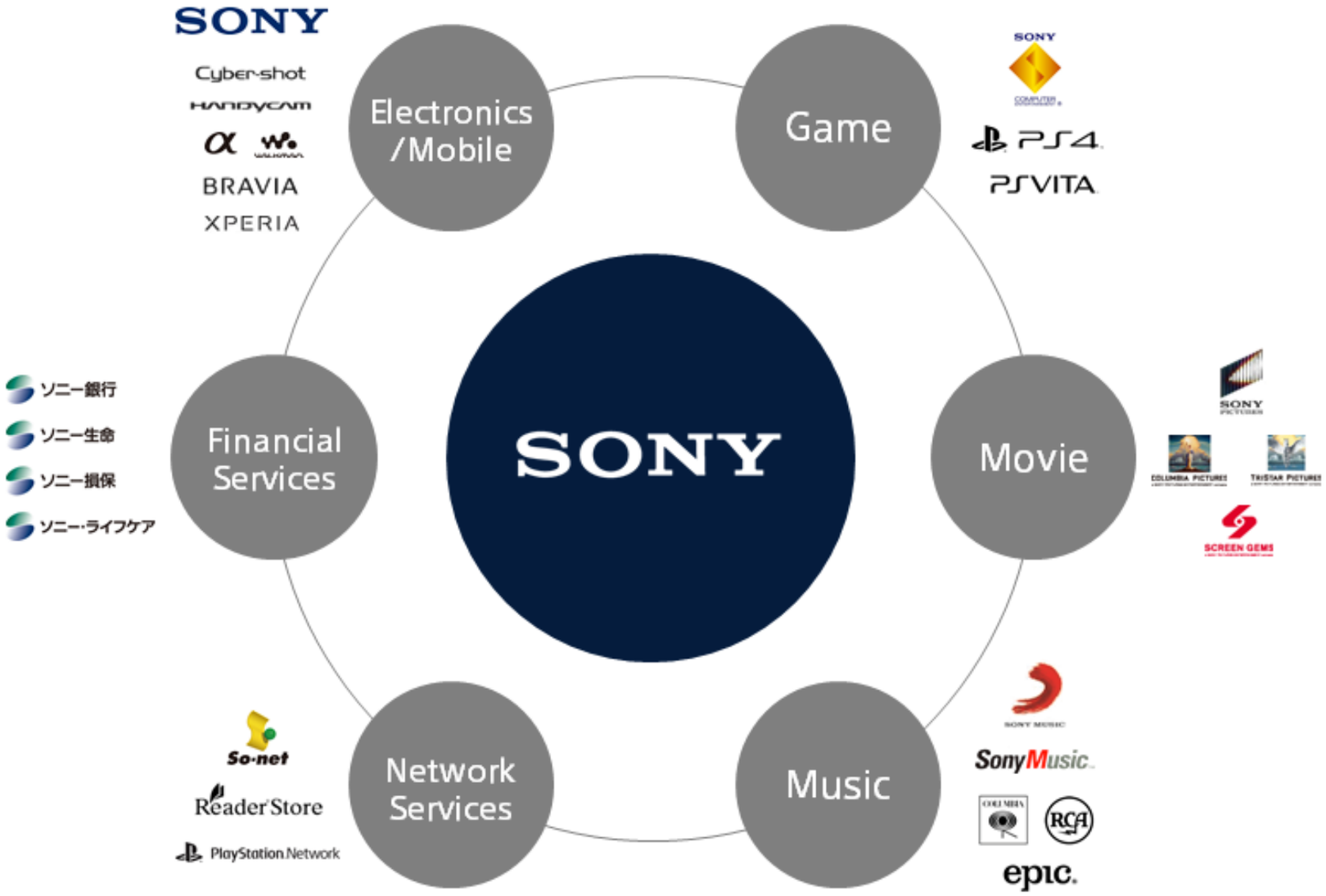
SONY

「Road to Zero」における温室効果ガス排出削減

ソニー株式会社
品質／環境部門　環境部
八木　克

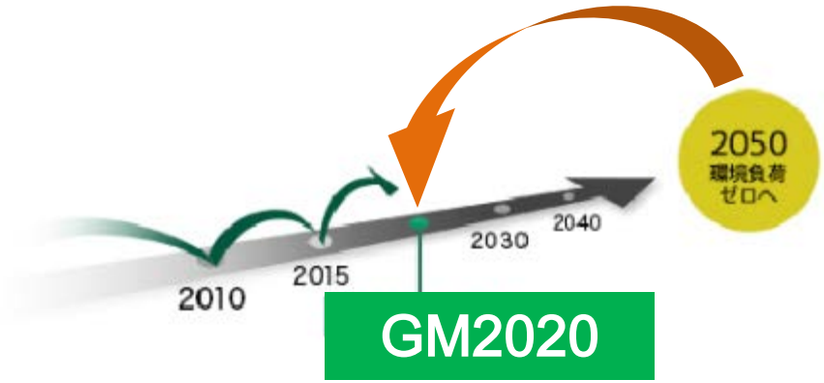
ソニーグループの事業内容



環境活動の歴史

1990年	環境保全に関する社長方針通達、地球環境委員会発足
1993年	ソニー環境基本方針、環境行動計画を策定
2002年	全世界の製造事業所でISO14001認証取得完了
2006年	全世界の事業所の環境マネジメントシステムで統合認証を取得 WWFが推進するクライメート・セイバーズ・プログラムに参加
2010年	環境計画「Road to Zero」を策定 環境中期目標「GM2015」を策定
2015年	環境中期目標「GM2020」を策定

ソニーの環境計画 「Road to Zero」 とは



- 「環境負荷ゼロ」を達成するための計画。
- マイルストーンとして、5年毎に中期目標を策定
- 中期目標は、「６つのライフステージ」ごとに「４つの視点」で策定。
- 達成年（2050年）からバックキャスティング（逆算）で決める

ライフステージ

4つの視点

「Road to Zero」における４つの視点

・気候変動

事業活動ならびに商品・サービスのライフサイクルに
起因するエネルギーの使用を削減し、
温室効果ガスの排出ゼロを目指します。

・資源保全

事業活動における**新規の資源投入量を最小化**するために、
重視する資源を特定し、その新規材料の利用量ゼロを
目指します。また、水の適正な利用に努め、
事業所における廃棄物を最小化するとともに、
市場からの製品の回収リサイクルに最大限の努力をします。

4つの視点

・生物多様性保全

事業活動や地域貢献活動を通して、
生物多様性の維持、回復を積極的に推進し、
生態系サービスの保全と持続的な利用に努めます。

・化学物質管理

使用する化学物質が人の健康と地球環境にもたらす著しい悪影響のリスクを最小化します。
使用する化学物質の確実な管理を行うとともに、
予防的措置の観点に立ち、科学的確証が十分に得られていない
場合も考慮しつつ、環境に著しい影響を与える可能性のある物質の
継続的な削減・代替に努め、可能となり次第、その使用を中止します。

長期計画策定のメリット

- あるべき姿を社内で共有できる。
- ロジカルで納得感のある目標設定ができる。
- 方向性がぶれない。（環境は長期的な取り組みが重要）

➢ **中期計画策定時にあるべき姿に向けてクリアな議論や目標設定ができる。**

（GM2015年検討時の背景）

✓ IPCC 4次報告書によれば2050年までにGHG排出量を80～95%削減する必要がある。

➢ 2050年環境負荷ゼロを目指す長期計画「Road to Zero」を策定

環境中期目標（GM2020）

GM2020：
Road to Zero に向けた
2020年のマイルストーン

環境中期目標（GM2020）　主な目標抜粋

４つの視点

６つのライフステージ

		気候変動	資源	化学物質	生物多様性
商品/サービスの企画および設計		・環境配慮設計 ・世界で5億人に環境啓発（エンタ）			
		・AC機器　▲30%(FY2013比) ：年間消費電力量平均削減率 ・携帯電話、タブレット ：充電器の省エネ	・バージンプラスチック使用量 ▲10%（平均削減率） ・質量削減	化学物質の代替	再生紙・認証紙の使用
オペレーション	自社	・GHG総量▲5%(FY2015比) ・再生可能エネルギー導入30万トン	・廃棄物発生量▲5% ・廃棄物埋め立て率　1%以下 ・水使用量総量▲5%	VOCの大気排出▲50% （FY2000比）	環境地域貢献活動
	委託先	・GHG排出量　年率▲1%を求める ・再生可能エネルギー導入を求める	・廃棄物発生量削減 ・水使用量年率▲1%	統一基準による使用制限・禁止	環境地域貢献活動
調達		GHGデータの把握と削減	水使用量データの把握と削減	統一基準による使用制限・禁止	生物多様性への配慮
物流		物流CO2排出量▲10%(FY2013比)	–	–	–
回収・リサイクル		–	・効率的なリサイクルスキームの構築と運用 ・重視資源の再資源化の実態把握	–	–
イノベーション		技術開発およびビジネスモデル開発			

４つの視点と６つのライフステージ別に目標設定

環境中期目標（GM2020）における重点項目

1．エレクトロニクスやエンタテインメントなど事業領域別の目標の策定と施策の推進

2．バリューチェーン全体における環境負荷低減の働きかけ

3．再生可能エネルギーの導入を加速

「Road to Zero」における環境負荷ゼロ

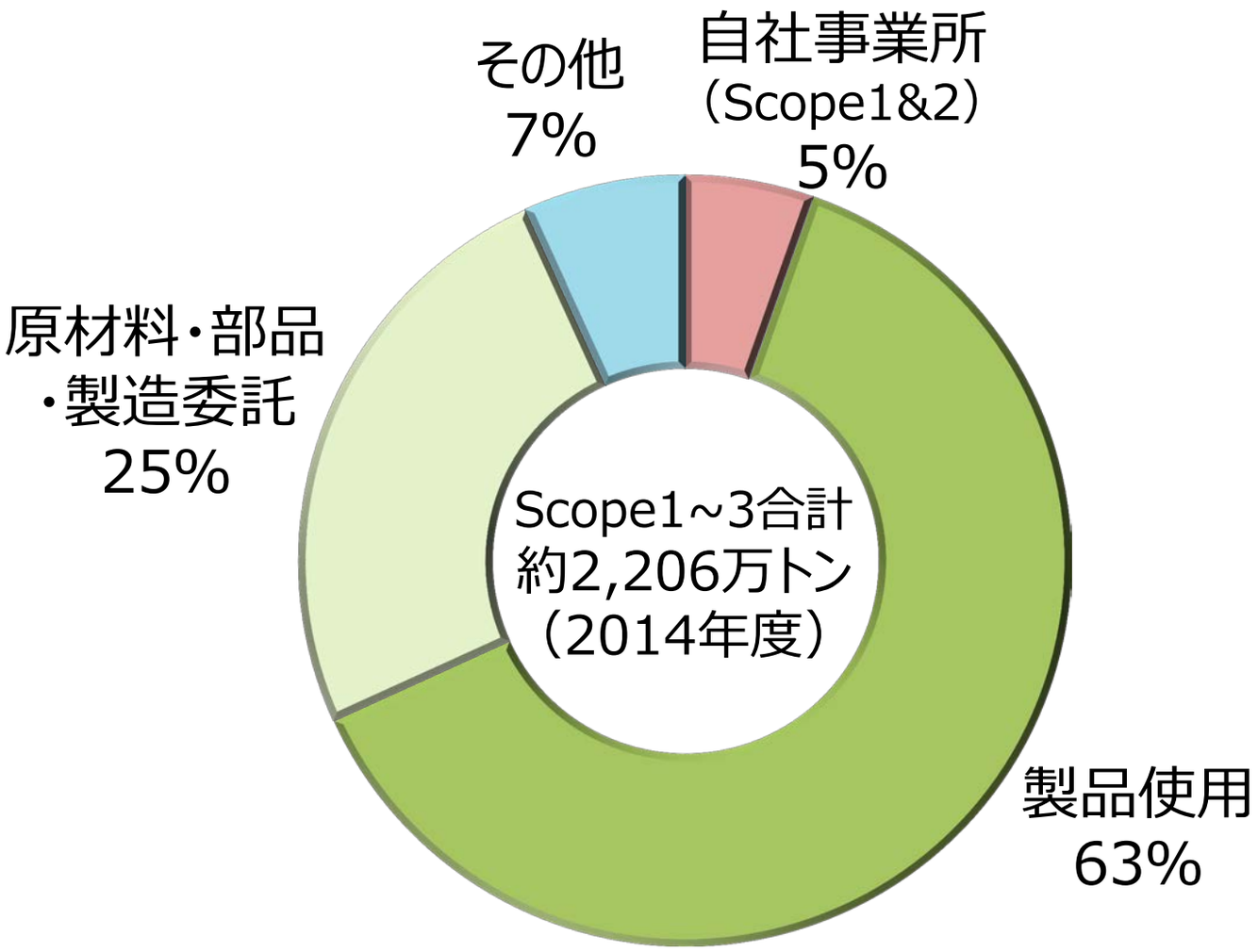
気候変動
温室効果ガス排出量がゼロ

資源
重点資源の新材利用がゼロ。
廃棄物が極小化され、
水が適正利用されている状態。

生物多様性
生物多様性が保全され、
生態系サービスを持続的に利用できる状態

化学物質
使用する化学物質が人の健康と
地球環境にもたらす著しい
悪影響のリスクを最小化した状態

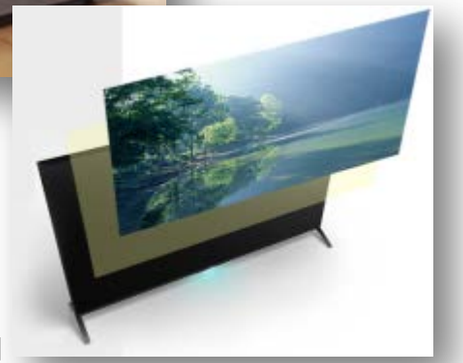
ソニーグループのライフサイクルでの温室効果ガス(GHG)排出量



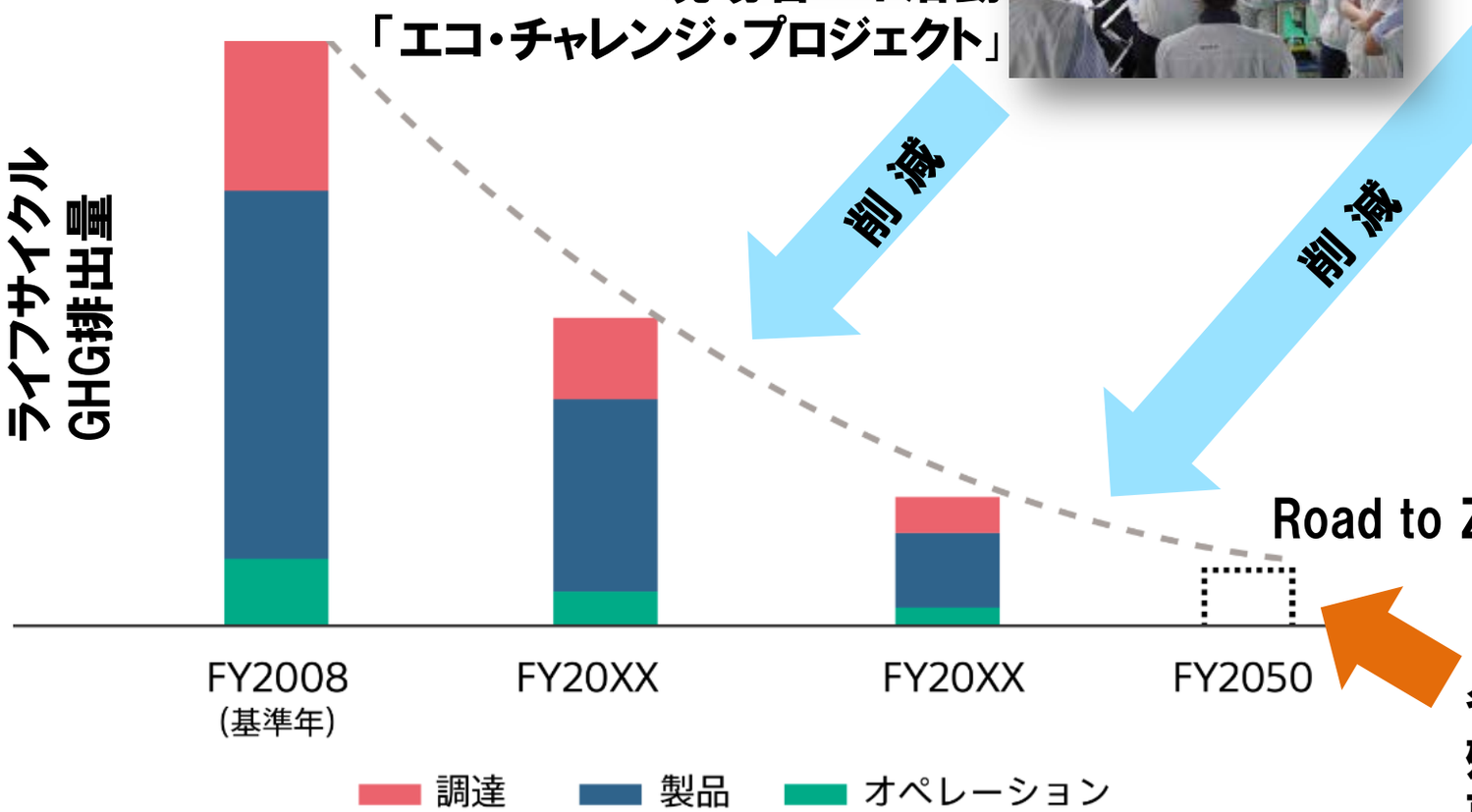
大部分はエレクトロニクス製品・事業

どのようにゼロを達成するか：　温室効果ガスを例に

現場省エネ活動
「エコ・チャレンジ・プロジェクト」



環境配慮製品



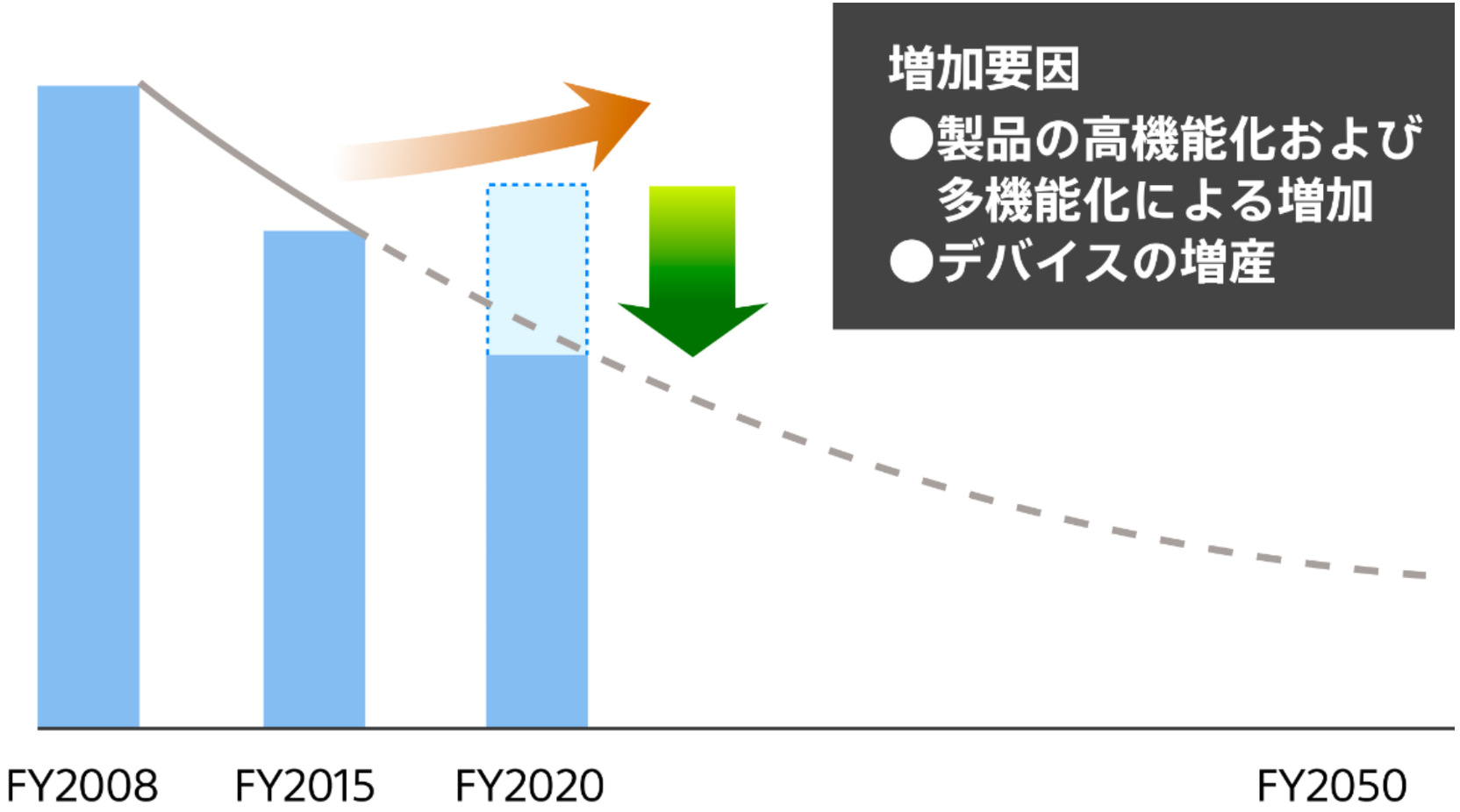
省エネ活動後に
残ってしまう分は
再生可能エネルギー等を活用

環境負荷ゼロへの道筋イメージ

2020年度目標（GM2020）達成に向けて

製品ライフサイクルトータル※でのCO2排出量

※部品調達、製品製造、製品使用時含む

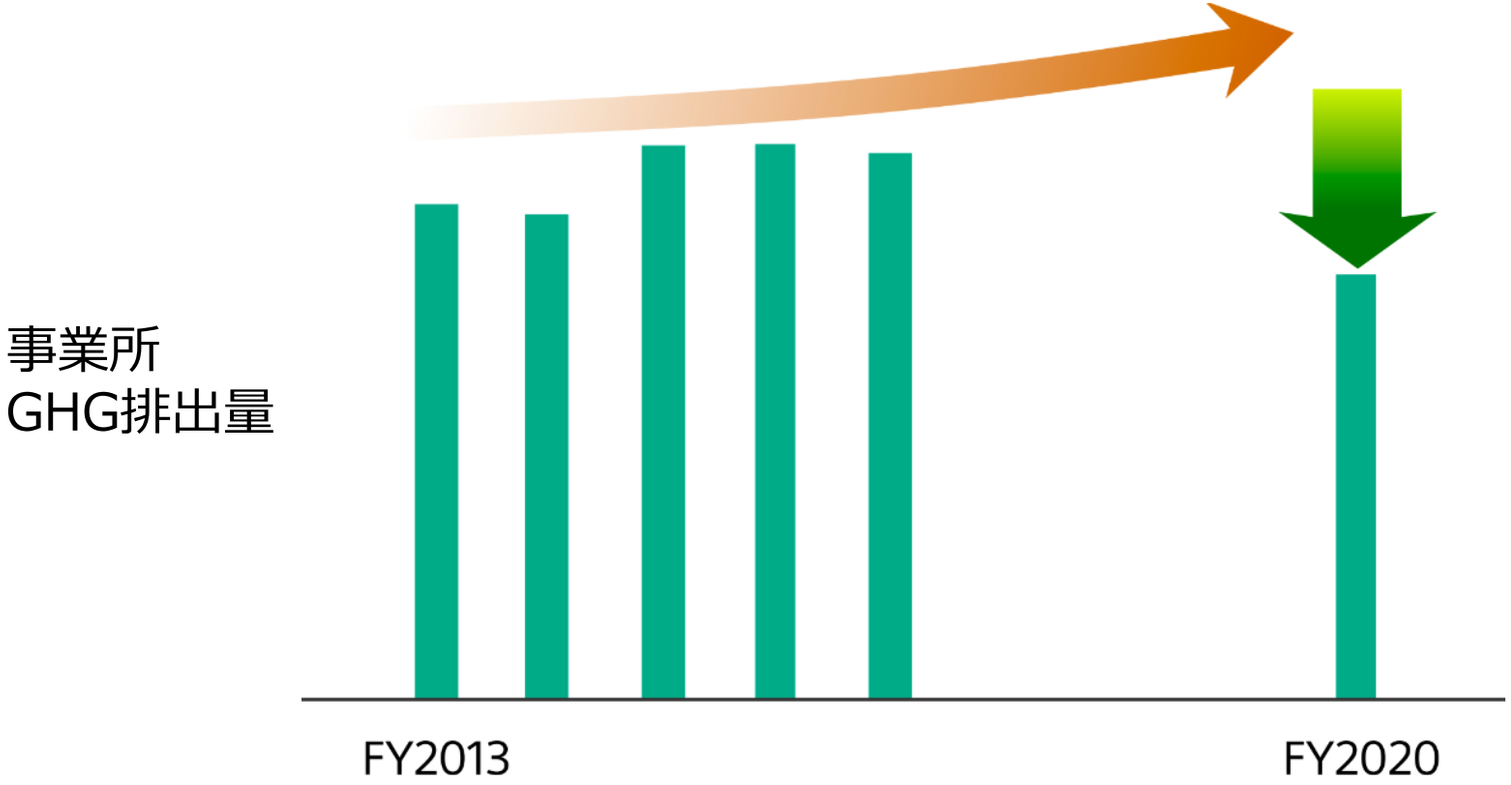


- 現在の延長線上ではRoad to Zeroの達成は困難。
- 増加要因に対応する施策を実施し、活動を加速。

2020年度目標： オペレーション（Scope1&2）のGHG削減

【目標】 事業所からのGHG排出量を総量で▲5%※ （FY2015比）

※FY2000比▲42%相当

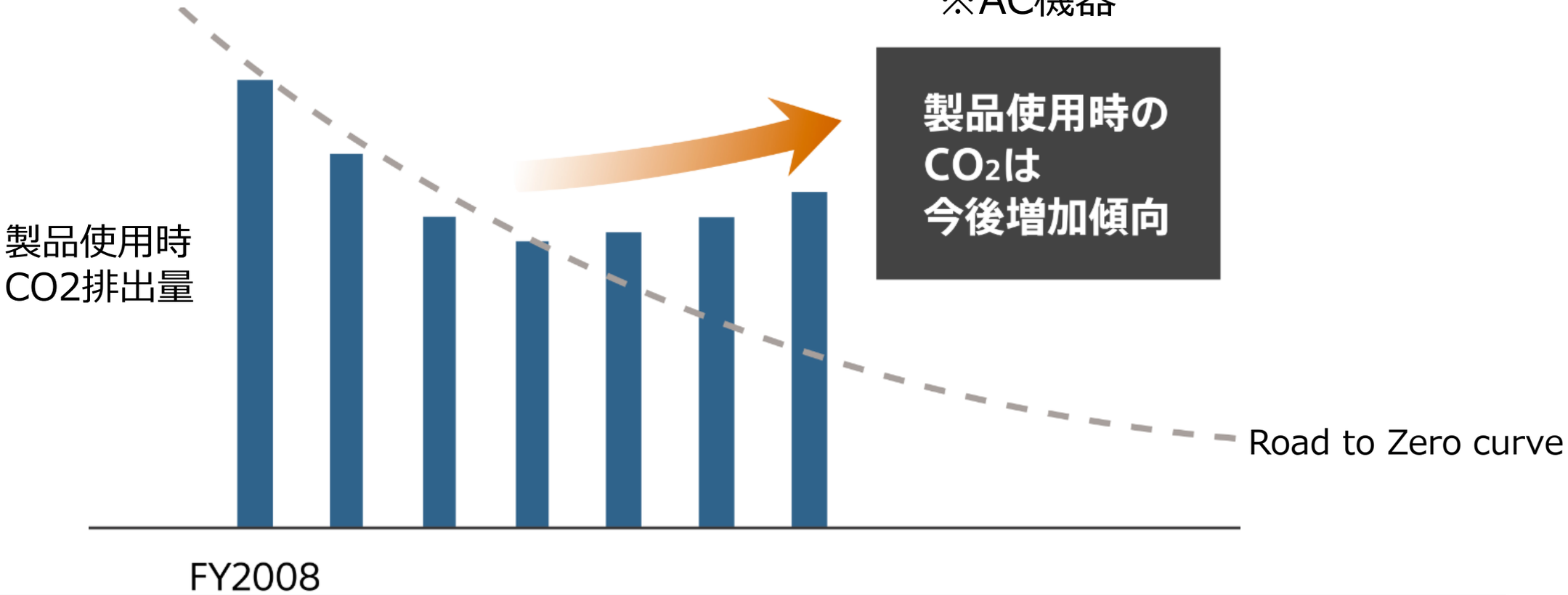


- 事業所GHG排出量の大半はデバイス製造に起因。増産により、増加傾向に
- 増産しても事業所GHG排出量を増やさない活動に取り組む

2020年度目標： 主要製品の消費電力削減（Scope3）

【目標】 製品※の消費電力量 ▲30% （FY2013比）

※AC機器



- 高機能化・大型化により、製品使用時CO_2は増加傾向に
- 重点製品を中心に省エネ化を進め、ソニー全体で30%削減を目指す

ソニーは「環境負荷ゼロ」を実現するため、
環境計画“Road to Zero”を推進します。

SONY